

開催地名	静岡県 湖西市
開催日時	令和6年10月19日(土)9:30～11:00
開催場所	西部地域センター
語り部	平澤 つぎ子(千葉県旭市)
参加者	35人
開催経緯	湖西市では、指定避難所ごとに自治会や自主防災会を中心に避難所の開設や運営について連絡会や訓練を行っているが、避難所運営には女性や子供等への配慮が、特に重要となっている中、女性の要望や意見を反映させられる女性防災リーダーの育成が課題となっているため。
内容	■ はじめに 東日本大震災の経験を通して、防災における地域の役割や避難所運営の重要性を考える機会とすることが、本講座の目的であった。特に、避難所や自主防災組織において、女性が果たす役割の大きさが強調された。 ■ 災害の経験と教訓 千葉県旭市と湖西市は、共に海に面した地域であり、自然災害に対する脆弱性が共通している。しかし、人口構成や高齢化率の違いが、防災活動のあり方にも影響を及ぼしている。災害には台風、大雨、洪水、土砂災害、地震など、さまざまな種類があり、それぞれ異なる対策が求められる。特に地震は予測が難しく、備えの有無が被害の大小を左右する。能登半島地震や東日本大震災の事例からも、事前の備えが命を守るためにいかに重要かが示されている。 ■ 避難所生活と女性・高齢者の視点 避難所生活は決して快適なものではなく、特に女性や高齢者にとっては多くの課題がある。プライバシーの確保が難しく、着替えや衛生管理、トイレの問題が深刻である。また、食事が偏りがちであり、共同生活によるストレスも避けられない。 女性は避難所において、衛生管理や食事の準備、介護や育児の面で重要な役割を担う。避難所の環境をより良いものにするためには、女性が積極的に運営に関わることが必要である。そのためにも、日常的に防災訓練へ参加し、避難所での生活環境を改善するための知識やスキルを身につけることが求められる。 ■ 自助・共助・公助の役割 災害時には、「自助」「共助」「公助」の3つの要素が重要となる。 自助とは、自分自身や家族の命を守るために、事前に準備し、冷静に行動することである。例えば、家具を固定し、避難経路を確保することや、非常持ち出し袋を準備しておくことが挙げられる。また、定期的に避難訓練に参加し、実際の災害時に適切な対応ができるように備えておくことも重要である。 共助は、地域のつながりを活かし、近隣住民同士で助け合うことを指す。阪神・淡路大震災や東日本大震災では、行政の支援が届く前に、地域の人々が互いに協力しながら多くの命を救った事例が報告されている。地域での防災訓練や情報共有を通じて、いざという時に迅速に動ける体制を作ることが不可欠である。 公助とは、行政機関や公的機関による支援のことを指す。しかし、災害発生直後は行政の対応が遅れることが多く、すぐに公的な支援を受けるのは難しい。そのため、まずは自助・共助を優先し、住民同士で支え合うことが重要となる。 ■ 災害復興と地域社会の役割 災害からの復興には長い時間がかかる。能登半島地震の被災地では、復旧作業が進む中で再び豪雨被害に見舞われるなど、復興の難しさが浮き彫りとなっている。こうした課題に対処するためには、地域社会が一体となって防災活動を強化することが求められる。 防災訓練は、地域全体で災害に備えるための重要な手段である。特に、自主防災組織が主導する訓練では、避難所の運営方法や要支援者への対応などを学ぶことができる。事前に訓練を行うことで、実際の災害時に迅速な対応が可能となり、被害を最小限に抑えることができる。

■ まとめ

自然災害はいつどこで発生するかわからないため、日常的に防災意識を高めることが重要である。特に、自助・共助・公助のバランスを考え、地域社会全体で防災訓練や情報共有を進めることが求められる。

また、女性や高齢者の視点を取り入れることで、避難所生活の質を向上させることができる。避難所の環境改善は、災害時の困難を乗り越えるために不可欠であり、より多くの人が安心して避難できる仕組みを作ることが大切である。

災害は決して他人事ではなく、誰にでも起こりうるものである。防災意識を高め、地域全体で協力し合うことで、命を守る力を強化することができる。講座を通じて、その重要性を改めて認識する機会となった。



開催地より

過去の災害、避難所の状況、自助で命を守ることの重要性について講演いただいた。引き続き、住民に対する防災意識の高揚を図っていきたい。